

第43回大阪の医療と福祉を考える公開討論会 コロナ禍の生活環境 子ども達への影響を討論



第43回「大阪の医療と福祉を考える公開討論会」を10月22日午後開催しました。今回は、「コロナ禍におけるメンタルヘルス『子どもたちが抱えるストレス——気付いてあげて、子どもたちのサイン』」と題して、昨年度と同様にYouTubeによるライブ配信で行いました。



司会は西靖・MBSアナウンサー、コメンテーターは阪本栄副会長が務め、冒頭、高井康之会長があいさつ。今回のテーマは「初めて子どもに着目した内容」と紹介し、子ども達はコロナ禍で辛い経験をしているが、その先の明るい未来へつながるような討論になればと期待を寄せました。

その後、4人のパネリスト（下記）から見解が述べられた後、討論が行われました。

◆コロナ禍の子ども達の心の問題——石崎優子・関西医科大学総合医療センター小児科診療部長



日本小児科学会社会保険委員会報告より、コロナ禍で増えた問題を抽出。生活環境の変化が虐待、不登校など子ども達の心身に悪影響を及ぼしている可能性を指摘しました。また、小児科診療の現場からは、▽不登校▽起立性調節障害▽摂食障害▽肥満▽スクリーンタイム▽睡眠障害——が増えたとし、それぞれを詳しく解説しました。

◆コロナ禍における児童のメンタルヘルス——小島美幸・大阪市立湯里小学校長



大阪市小学校教育研究会保健部研究員（54人）にアンケートを実施し、コロナ禍で子どもの変化を感じた教員は85%に上ることを報告しました。また、体調不良や食欲不振、友達とのトラブルによるストレスといった相談には、養護教諭が対応している状況が明らかになりました。最後に、教員からのメッセージを紹介し、子ども達へアドバイスを送りました。

◆コロナ禍での生活——つるの剛士氏 × 西靖アナウンサー



コロナに罹患して困ったこと、コロナ禍による生活環境の変化、コロナ禍で見つけた明るい兆し——など、5児の父でもあるつるの氏には、西アナウンサーとの掛け合いで語ってもらいました。つるの氏はコロナ期間で幼稚園教諭の資格を取得。教育実習の体験を交えながら、マスク生活が与える子ども達の将来への不安を述べました。

◆生徒・保護者のアドボケーターとなるために——森口久子・大阪府医師会理事



まず、学校医の職務や府医学校医部会の活動を説明。また、新型コロナウイルス感染症の状況を解説するとともに、国立成育医療研究センターが実施した「コロナ×こどもアンケート」および大阪小児科医会の協力で実施したアンケート調査から、「子ども達の声」を紹介しました。最後に、学校医からのメッセージとして、「コロナの経験を共有し、次世代に伝えていきたい」と語りました。